



郷土資料

あれこれ 70

【問合せ】
社会教育課 郷土史編さん係
☎773-2197

一步、家から出れば道がはじまります。道は、日々の通勤、通学、買い物や余暇まで私たちの生活に欠くことのできないものです。今回は道に関する石碑を紹介します。

南魚沼市の石碑⑤ 「奉 川東縣道開道記念」 の碑 【津久野下新田 神社境内】



川東線とは、魚野川の東側を通る八幡から城内、大崎、伊米ヶ崎を通り小出を結ぶ道路で、現在の国道291号線です。経路は一部変更されていますが、今でも南魚沼の主要な道路です。明治40年12月の県議会が開議が議決され、大正12年に開通となりました。

川東線の開通を記念し、津久野下新田青年団では、県道開道記念として幟石を奉納しました。地域の発展のため、この道路への期待がいかに高かったのか想像できます。

南魚沼市の石碑⑥ 「拓関越」 【中】



関越自動車道は、東京と新潟を結ぶ高速道路です。昭和38年に国により路線基準が決定され、昭和60年10月2日、湯沢〜前橋間の開通により前線が開通しました。

全線開通の記念碑は赤城高原サービスイリア下線に建立されています。塩沢では、開通までの活動の経緯を石碑に刻み、関係した人たちの功績

を称えています。

南魚沼市の石碑⑦ 「欠之上五段平開発記念碑」 【欠之上】



欠ノ上の五段平は、古くか入会山として薪、しばなどの採取の場でしたが、昭和30年代を迎えるころには荒山となっていたそうです。昭和33年頃には集落の協議により桑畑として利用されはじめましたが、養蚕業の衰退とともに荒地となっていました。昭和55年から高速道路の建設のため、盛土が必要となり、五段平から130万㎡の土が採取されました。跡地は野球場などの野外レクリエーション公園として整備され多くの人たちに利用されていきました。

平成19年、公園は、上越魚沼地域振興快速道路一般国道253号八箇峠道路の建設用地となったため廃止されました。また、この新道路の建設に伴い集落を守ってきた十二神社（山の神）、戸隠神社（水

の神）も移転となりました（石碑銘文より）。

この経緯を後世に伝えるため、記念碑が建立され、移転された神社とともに新道路を見守るように佇んでいます。

南魚沼市の石碑⑧ 「魚沼スカイラインの石塔」 【魚沼展望台】



魚沼スカイライン（一般県道田沢小栗山線）は観光道路で、魚沼丘陵の尾根沿いに八箇峠から十二峠間の約18kmを走っています。昭和45年に工事が始まり、昭和51年に完工、昭和54年9月に正式開通となりました。5つの展望台からは八海山、巻機山や魚沼盆地、十日町盆地などの壮大な風景を眺めることができます。

開通を記念し、「山の道安かれ」との願いを込めた石塔が魚沼歌壇によって建立されています。

南魚沼市の石碑⑨ 「広域基幹林道一之沢滝ノ又線記念碑」 【一之沢】



林道とは、森林や山林を整備し、保全管理することを目的に設置された道路です。広域基幹林道一之沢滝ノ又線は、その名のとおり一之沢から湯沢町の滝ノ又に続く林道です。この林道は、昭和54年に着工され、ようやく平成12年に延長距離約11・5kmメートルが完成しました。林道の途中にあるビューポイントでは金城山や巻機山を、展望広場からは奥添地、岩原湯沢方面を望むことができます。展望広場には、開通を記念し、「緑を育む千年紀への林道」と願いを込めた記念碑が佇んでいます。

《参考資料》
『大崎の村誌』、『六日町誌』、『六日町史』